

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年11月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行期に入りました。ワクチン接種など、早めの対策が大切です。
- マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告数が増加しています。百日咳、手足口病の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が引き続き多い傾向が続いています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年10月21日～11月24日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
腸管出血性大腸菌感染症	16件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
つつが虫病	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	8件	梅毒	39件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	11件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

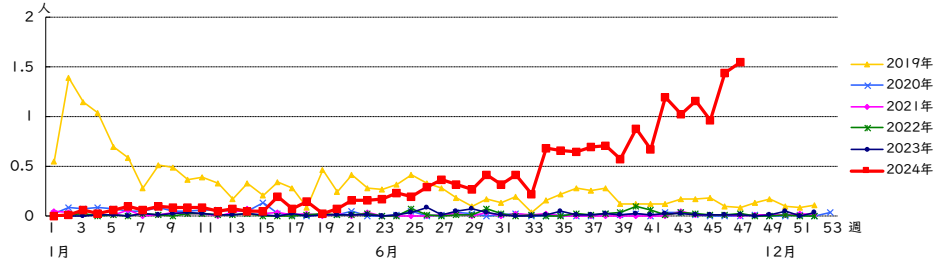
1. **細菌性赤痢**:50歳代で、Sonnei(D群)です。国外での経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～70歳代で、O血清群はO157が9件、O103が2件、O165が1件、O血清不明が4件です。経口感染と推定される報告が5件、経口感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が10件です。
3. **E型肝炎**:40歳代及び50歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **A型肝炎**:30歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
5. **つつが虫病**:30歳代及び60歳代で、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件、昆虫等からの感染と推定される報告が1件です。
6. **レジオネラ症**:50歳代～90歳代で、患者(確定例)が7件(いずれも肺炎型)、無症状病原体保有者が1件です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が4件です。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:10歳代～80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が2件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:60歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満～60歳代で、血清型はA群が1件、B群が3件です。創傷感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定されている報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～70歳代で、感染経路は性的接触と推定される報告が5件(同性間3件、異性間1件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満及び90歳代(ワクチン接種歴3回1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
12. **侵襲性髄膜炎菌感染症**:30歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。
13. **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明6件)で、飛沫感染と推定される報告が1件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件です。
14. **梅毒**:10歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期16件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者11件です。性的接触による感染と推定される報告が33件(異性間23件、同性間4件、詳細不明6件)、感染経路等不明が6件です。
15. **百日咳**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回3件、1回2件、不明6件)で、家族内感染と推定される報告が2件、周囲の流行と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。

報告週対応表	
2024年第43週	10月21日～10月27日
第44週	10月28日～11月 3日
第45週	11月 4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

◇ 定点把握の対象

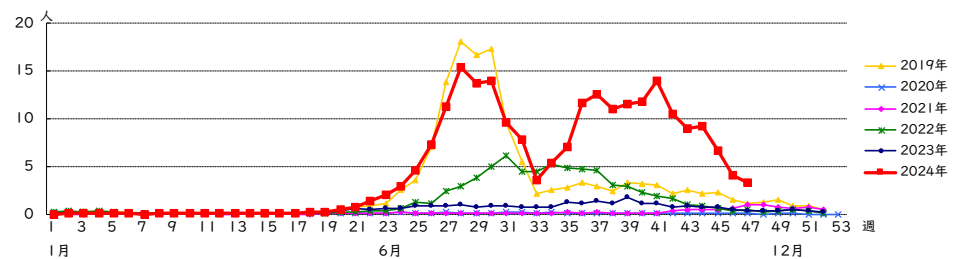
1 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向となり、特に第34週以降は例年よりもかなり高い値で推移しています。第47週は1.55です。



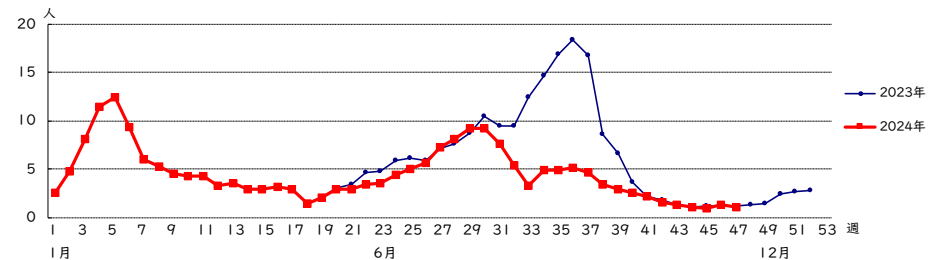
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第28週に15.27で1度目のピークを、第41週に13.85で2度目のピークを迎え、以降は減少傾向が続いています。第47週は3.25です。



3 新型コロナウイルス感染症

2024年第19週以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少傾向が続いています。第47週は1.04です。



4 性感染症(2024年10月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 9件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性:20件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 9件	女性: 3件

5 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.75	2.75	5.00	2.50	2.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

(ウイルス検査)

2024年第43週～第47週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、インフルエンザ(内科)定点9件、基幹(病院)定点2件でした。

12月3日現在、表に示した各種ウイルスの分離11株と遺伝子12件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第43週～第47週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	イン フル エン ザ	手 足 口 病	上 気 道 炎	下 気 道 炎	髄 膜 炎	発 熱
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	3 -		1 -			
インフルエンザウイルス AH3型	1 -					
インフルエンザウイルス B型(Victoria系統)	1 -					
パラインフルエンザウイルス 2型				1 -		
パラインフルエンザウイルス 3型						- 1
ヒトボカウイルス			- 1	- 1		
コクサッキーウイルス A4型				- 2		
コクサッキーウイルス A16型		3 2	- 1		- 1	
エンテロウイルス A71型		1 -				
ライノウイルス			- 1			
アデノウイルス		- 1	- 1			
合 計	5 -	4 3	1 4	1 3	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第43週～第47週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症11件、細菌性赤痢1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症6件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、トキシックショック症候群1件でした。医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症3件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症4件、レプトスピラ症疑い3件、不明熱3件、髄膜炎菌接触者調査1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌感染症4件、マイコプラズマ感染症2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2024年第43週～第47週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	11	O157 : H7 VT1 VT2 (5) O157 : H7 VT2 (3) Og76 : H19 VT1 (1) Og141 : Hg29 VT2 (1) Og182 : Hg25 VT2 (1)
	細菌性赤痢	1	<i>Shigella sonnei</i> (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (1) B群溶血性レンサ球菌 I a型 (1) B群溶血性レンサ球菌 III型 (1) B群溶血性レンサ球菌 V型 (1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (2)
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	<i>Neisseria meningitidis</i> B群 ST2057 (1)
	トキシックショック症候群 (TSS)	1	<i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1、PVL陽性 (1)
医療機関	サルモネラ症	3	<i>Salmonella</i> Kentucky (1) <i>Salmonella</i> Sandiego (1) <i>Salmonella</i> Typhimurium (1)

分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型
保健所	喀痰	レジオネラ症	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2) レジオネラ属菌 培養 陰性 (2)
	尿		1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)
	全血	レプトスピラ症疑い	1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)
	血清		1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)
	尿		1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)
	全血	不明熱	1	レプトスピラ、ボレリア PCR 陰性 (1)
	血清		1	抗ボレリア抗体、抗ブルセラ抗体 陰性 (1)
	咽頭ぬぐい液	髄膜炎菌接触者調査	1	髄膜炎菌 培養 陰性 (1)

小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶連菌感染症	4	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (2) 溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (2)
	咽頭ぬぐい液	マイコプラズマ感染症	2	マイコプラズマ PCR 陽性 (2)